

## 課題解決型授業を体系的に

**本** 国内の大学の多くが取り入れ、今最も注目を集めている教育プログラムを紹介した本「課題解決型授業への挑戦」＝写真＝がこのほど刊行された。京都産業大現代社会学部の木原麻子准教授らが執筆を担当し、授業を受けた卒業生の追跡調査によって、その教育効果までを検証している。

企業と連携した上で、大学が主導して運営される教育プログラムは「コーオペ教育」と呼ばれ、課題解決型授業（PBL）はその代表的な実施形態とされる。PBLの全容を体系的にまとめた本はほとんど前例がなく、全国的な先進事例として2008年に同授業を始めた京産大の教員グループが、これまでの取り組みや成果をまとめた。

同書では、京都への移住を希望する人た



### ◆ 科学トピックス ◆

ちを支援する団体から提供された課題を基にした授業の実践例や、PBLなどのキャリア教育の受講が就職に有利に働いたという調査結果などをデータや図表を用いて掲載している。また卒業生へのアンケートの分析では、キャリア教育は仕事に関する持



論の形成に役立っていることも示されている。

京産大のPBLに導入時から携わってきた木原准教授は「PBLの受講生は、課題に向き合うことで変化を起こす。それが魅力で授業づくりにのめりこんできた。

本では実践例などを赤裸々に書いた」と話す。ナカニシヤ出版刊。3888円。（松尾浩道）

「学生たちが変化を起こすのがこの授業の魅力」と語る木原准教授（京都市北区・京都産業大）